第38回児童生徒 読書感想文コンクール

児童生徒読書感想文コンクールに、多くの優秀な作品が寄せられました。
先月に引き続き、最優秀作品を紹介します。

■小学校5年生の部　最優秀賞

つるにのって

弟子屈小学校　鈴木　あかり さん

私がこの「つるにのって」を読もうと思った理由は、この本には広島県に落ちた原爆のことが書いてあって、以前から広島県に落とされた原爆の事について知りたいと思っていたからです。

この物語は、主人公の佐藤とも子が、原爆のことを学ぶために見学に行った広島県の平和記念公園の資料館にある原爆の子の像サダコが動き出して、原爆の恐ろしさをとも子に教えてくれるというお話です。

私が一番心に残った場面は、サダコが小さい頃に落とされた原爆の映像を見ている場面です。私はどうして原爆が落とされたのか、そしてこの原爆が落とされたために何万人、何十万人もの人々が死んでしまったことを思うと、すごく悲しかったです。

怖かった場面は、ほのおに焼かれて大やけどを負ったところを再現した人形を見ている場面です。

そして、ドロドロに体が溶けていく写真は本物の人間のようで、本当にこんな風になっていたかと思うと、悲しい気持ちになりました。

私がとも子と似ているなと感じたところは、原爆が落ちたすぐ後の様子を再現した展示物を見たときのとも子が、泣きそうになっている場面です。

とも子は、今すぐにでも泣きそうになっていて、あまりにもつらくて、

「もう、帰ろうかな。」

と、言いました。私ももしその場にいたら、同じ気持ちになっていたと思います。

「こんな所に取り残されて、こわくて仕方ないんだわ・・・。サダコ、あの子達を助けてあげて！」

これは、放射能を浴びて死の世界になったパリの町に子どもがいて、とも子が助けようとしている場面です。このセリフを見たとき人のことを思って行動するとも子をすごいと思いました。

私もとも子を見習って、人のことを思って行動することを意識して生活していきたいです。

「サダコちゃーん！」

これは、原爆が落とされた映像を見て、とも子が叫んだ言葉です。せっかく友達になったサダコが原爆によって命がうばわれるのではないかと心配して叫んだのだと思います。

ある場面でサダコがとも子に、

「ねぇ、とも子。好きな子いる？」

と聞きます。とも子は、

「うん」

と答えた後、しまったと思います。それは、きっとサダコにも好きな人がいて、でも原爆ですべてがうばわれたことを思い出してしまうのではと思ったのだと思います。

物語の最初にとも子が折り鶴を折って飛ばすと、その折り鶴が原爆の子の像の方へ飛んでいってサダコが動いたのは、広島県のことそして、これらの原爆のこわさをきっととも子に伝えたかったからだと私は思いました。

この本を読んで、これからも「人の命」を大切にしようと思いました。

そして、友達・家族のことを思って行動することを、心がけて行きたいと思います。

書名『つるにのって』
ミホ・シボ　著

（寸評）まず小学校5年生のあかりさんが、「原爆のことについて知りたい」という思いで、この本を手にとったことに感心しました。どんな悲しいことが起きたのか、私たちも大人でも、しっかり向き合おうとすることは、なかなかできないからです。主人公が伝えたかった「命」「友達」「家族」の大切さを、あらためて見つめ直ししっかり生きていかなければと、教えられました。ありがとうございます。

■小学校6年生の部　最優秀賞

見ててね、モア

弟子屈小学校　西田　愛梨 さん

「自分の目がもし見えなかったら・・・」

私以外の人がこう聞かれたら、何と答えるだろう。「そんなの嫌」かなぞれとも「今見えているからわからない。」かな。私もこの疑問をずっと考えていた事がありました。やっぱりテレビとか本が見られなくなるのは嫌だなぁとも思いました。でも、それ以上は考えられませんでした。軽く考えていなかったからです。ですが、ある本との出会いをきっかけに私の考えは、がらりと変わりました。その本は「おてんば盲導犬モア」という本で、名前からも解るように、おてんばな犬、モアが盲導犬となり、目の不自由な人を支えていく実話を元にした話で、この本では盲導犬の事はもちろん、盲導犬の事を理解してくれない人がいる事や、目の見えないことがどんなに辛いかも書かれていました。私は今まで、目が見える事、手足が自由に動く事に何の疑問ももたず、当たりまえのように生活していました。ですがこの本を見て、「そうか、自分の体が自由に動くのは、当たりまえなんかじゃないんだ。」と思いました。それと同時に丈夫すぎる体に生んでくれた親にも感謝したいなと思いました。

私は盲導犬に対して、「人の目のかわりをしてくれるすごい犬。」と思っていましたが世の中には一部ですが理解してくれない人もいます。モアとユーザーさん、盲導犬と一緒に生活している人が電車にのると、「どうして電車に犬なんてのせるんだ、おりろ。」とどなられたり、買い物をしようとしても断られたりするそうです。盲導犬はふつうの犬とちがい、きちんと訓練されていて、他の人には迷惑をかけない事を話しても、犬がきたないとか、迷惑だから入れられないという所が実際には多いという事でした。私は、世の中にはどうしても犬が好きになれない人もいるだろうし、全員犬好きというわけでもない事はわかります。でも店や公共施設に入るのは難しいにしても、盲導犬は目の見えない人を支えていることを知ってほしい、そんな盲導犬の努力をあたまごなしに否定しているようで私はモアとユーザーさんにもうしわけないきもちになっていました。かくいう自分もあまり知らなかったし、この本に出会い、見方も考えも変わりました。だからまずは知ってほしい。そうすれば何か解決策も見えてくると思うからです。

私はこの本を読んで、新しい課題ができました。それは今世の中でおきている色々な事に目を向ける事、私はこの本を読むまで、あまり盲導犬の事を知らなかったし、目が見えない人の気持ちを考える事も出来ませんでした。それに今の世の中には、良い事でも悪い事でも、知らなければいけない事がたくさんあると思ったからです。そして今、自分が出来る事を行動に移して行きたいとも思いました。この本の作者今泉耕介さんも盲導犬に対する見方を、今一度考えてほしかったのだと思います。

今は、本や勉強などで、世の中を知る事ができ、たくさんの事を学ぶ事が出来ます。私はそれを素晴らしいと思うし、どんどん吸収して行きたいと思います。行動に移すと言っても、私に出来るのはほんのわずかな事かもしれない、でもそのような事でも一歩一歩積みかさねていきたいと感じました。

この本の主人公、モアには、本を通じて元気をもらったし、見方、価値観のちがいという大事な事も教えてもらいました。

だから私はモアにお礼を言いたいです。「ありがとうモア」私はモアのような人を元気に出来る大人になりたいです。

書名『おてんば盲導犬モア』
今泉　耕介　著

（寸評）この本を読んで西田さんがとてもたくさんのことを感じとり、考え、文にまとめたのがよくわかりました。本から学んだこと、今までの自分とを比べて振り返るだけでなく、自分なりの新たな課題まで見つけ出すなど、とてもレベルの高い、素晴らしい感想文でした。きっと西田さんの感想文を読んで「おてんば盲導犬モア」を読んでみたくなる人が増えると思います。良い本と出会いましたね。

そのほかの最優秀作品についても、来月以降順次紹介していきます。※児童の学年は、コンクールが行われた平成24年度当時のものです。